

皆さま

震災後に中高生が果たした役割の記録プロジェクト

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

前略

東日本大震災の後、0歳～18歳までの子ども・若者の皆さんを支援しているセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、3月11日以降、主に避難所が解消されるまでの期間において中高生の皆さんが果たした役割を記録・公募する事業を行います。これは、各地の避難所において中高生の皆さんが年下の子どもと一緒に遊んだり、勉強を支援したり、水や物資の配布を手伝う、または被害の少なかった地域からの物資支援やボランティア活動、募金活動等色々な活動をしていたと言われていました。しかし、新聞等による報道において、その活動の一部は取り上げられたもののしっかりと記録に残らない可能性が高いと考えています。そこで、中高生の皆さん自身から投稿頂く、あるいはその働きを見た、或いは助けられた大人の方のお話を募集します。

早々

記

- 公募期間：2012年10月11日（木）～2012年11月30日（金）
- 対象地域：青森県、秋田県、岩手県、宮城県、山形県、福島県の東北6県（沿岸部、及び内陸部）
- 対象：a) 東北6県に暮らす中学・高校生
b) 中高生に助けられた方、働きを実際に見かけた方
c) 東北6県以外に居住するが、その期間に東北域内で活動をしていた中学・高校生
※小学生や当時高校生だった現大学生も可
- 対象時期：2011年3月11日～2011年12月末頃まで
- 投稿方法：①郵送：「投稿用紙」をこの用紙が入っていた返信用封筒に入れて送ってください。
②FAX：022-748-7284 ※投稿用紙を左記番号へ送ってください。
③メール：project@sanaburifund.org
④パソコンサイト：<http://www.sanaburifund.org/>
※上記URLより「投稿用紙」の印刷が可能です。投稿フォームより直接入力もできます。
⑤携帯サイト：中高生用 <http://enq-maker.com/d5yAfuC>
大人用 <http://enq-maker.com/gCce4Ak>

●投稿頂いた情報について：

投稿頂いた内容を全て掲載した冊子を作成し、投稿頂いた皆様に送付するとともに、ウェブ等に掲載するなどし、東北及びその他地域の方々に震災の大変な時期に中高生の皆さんが果たした役割を伝え、残していきたいと思っています。

以上

主催 公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

実施 一般財団法人 地域創造基金みやぎ（さなぶりファンド）

後援 文部科学省、復興庁（申請中）、青森県教育委員会、秋田県教育委員会、岩手県教育委員会、宮城県教育委員会、山形県教育委員会、福島県教育委員会、仙台市教育委員会、財団法人 児童健全育成推進財団、特定非営利活動法人 いわて連携復興センター、みやぎ連携復興センター、一般社団法人 ふくしま連携復興センター

問合せ 一般財団法人 地域創造基金みやぎ 担当：鈴木 / 根本

〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町 1-2-23 桜大町ビル 303

Tel: 022-748-7283 Fax: 022-748-7284 E-Mail: project@sanaburifund.org

●主催 / 公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンについて

「セーブ・ザ・チルドレン」は英国で 1919 年に創設された援助団体で、国連に公式に承認されている、子どもたちのための国際 NGO です。「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」は、1986 年に設立、日本を含む世界 30 力国で活動してまいりました。この度の東日本大震災においても、緊急・復興支援に取り組んでいます。震災後 5 日目には、宮城県に最初の『こどもひろば』を開設。現在は、「こどもの保護」「教育」「子どもにやさしい地域づくり」を柱に様々な事業を 5 ヶ年計画で展開し、行政への働きかけにも注力しています。子どもたちをはじめ地域の皆様、パートナーの NPO の皆さまとともに、子ども参加による復興を目指してまいります。

●実施 / 一般財団法人 地域創造基金みやぎ（さなぶりファンド）について

東北初のコミュニティ財団として、地域の復興を願う人々の想いや願いとともに、次なるまちの暮らしを創造していくために、各種事業（資金助成等）を実施し、地域社会の発展に貢献していきます。

保護者の皆様へ

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンと地域創造基金みやぎは、東日本大震災の発災後、2011 年秋より協働で、「こども☆はぐくみファンド」と称し、被災地の子ども（0～18 歳）、及び子育て中の保護者を支援している非営利組織に対して、支援金の提供等を通じて、子どもたちの成長環境の改善の支援を行っている所です。この度、「こども☆はぐくみファンド」では、3 月 11 日に発災後以降、避難所から仮設住宅に移行するまでの期間を主な期間として、中高生の皆さんが果たした役割を記録・公募する事業を実施します。投稿いただいた内容につきましては、冊子を作成し「子どもの参加」とよばれる子どもが果たしうる役割やその実践活動の普及・促進のため、今後の東北地域及びその他地域へウェブ等を通じ、幅広く伝えていきたいと思っております。ご連絡先をお伺いするのは、投稿用紙にご記入頂いた内容を更に詳しくお聞きする、或いはグループインタビューにご参加をお願いする場合があります、その際の連絡のみに活用し、他の目的には一切使用いたしません。また、プライバシーの保護に関する配慮を行い、情報の管理をいたします。趣旨ご理解のうえ、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。尚、ご不明な点等ございましたら、下記問い合わせ先までお問い合わせくださいませ。

●投稿用紙の書き方（中高生用）

タイトル：（なんでもよいです、何かタイトルをつけてください）

いつ頃：「2011 年 3 月頃～4 月頃」など（だいたい時期を教えてください）

どこで：「〇〇市〇〇避難所、近所のお年寄りの家」など（住所など詳しいことは書かなくて大丈夫です）

だれと：「友達 3 人」など（どんな人と、何人で一緒にやりましたか？だいたい人数でよいです）

どんな役割を果たしましたか？：（実際に行ったことを教えてください）

近所のお年寄りの家に水を運んでいました。きっかけは、避難所に水をもらいに並んでいるおばあさんに「運びましょうか」と声をかけたことがきっかけです。それから、そのおばあさんのマンションに水を運びました。すると、同じマンションにもたくさんお年寄りが住んでいて、水を一生懸命運んでいることがわかりました。それから、友達に声をかけて、しばらくの間水の宅配をしていました。

なぜ、それをやろうと思いましたか？：（きっかけや、理由、どんな気持ちで始めたのかなど）

寒い中、避難所に水をもらいに並んでいるおばあさんを見て、大変そうだなと思ったからです。

やってどう思いましたか？：（やってみてどんなことを感じたのか、気持ちや思ったことなど）

周囲の反応はどうでしたか？：（〇〇さんに「□□□」と言われた、など）

やってよかったこと、などを教えてください：（やってみて何か気づきや発見がありましたか？）

地域の高齢者の方々の役に立ち、喜んでもらうことができた。高齢者の方との会話が楽しかった。

避難所であったほうがよかったもの：（〇〇があるとよかった、〇〇ができるとよかった）など

応援があったらやりやすかったこと：

何軒かのお年寄りの家に水を届けたが、きっと他にも困っていたお年寄りの方がいたと思う。でも、どこにいるのかが分からなかったのも、お年寄りの世帯などの情報があればもっと役立つことができたと思う。

震災後に中高生が果たした役割の記録プロジェクト 投稿用紙

震災後、避難所をはじめたくさんの場所で、中高生の皆さんが果たした役割があったと新聞等と言われています。小さな子どものお世話をした高校生、水や食料など重いものを率先してもった中学生、自ら考えて動く中高生の姿に、大人は助けられ、たくさんの勇気をもらいました。そこで、その活躍が忘れられてしまう前に、中高生の皆さんが果たした役割を教えてください。どんな小さなことでもかまいません。中高生の皆さんが考えて動いたことを教えてください。応募していただいたみなさんの声は、まとめて冊子にし、東北地域とその他の地域に伝えていきたいと思っています。

タイトル（あなたの活動にタイトルをつけるとすると）		投稿者お名前	年齢
いつ頃 ※〇月～〇月頃	どこで ※〇〇県〇〇市・町 (住所など詳しいことは書かなくて大丈夫です)	だれと ※どんな人と、何人で一緒にやりましたか？ (だいたい的人数でよいです)	
①どんな役割を果たしましたか？（実際に行ったことを教えてください）			
②なぜ、それをやろうと思いましたか？（きっかけや、理由、どんな気持ちで始めたか教えてください）			
③やってどう思いましたか？（やってみてどんなことを感じたのか、気持ちや思ったことなどを教えてください）			
④周囲の反応はどうでしたか？（〇〇さんに、「□□□」と言われた、などありましたか）			
⑤やってよかったと思うことなど、教えてください。（やってみて何か気づきや発見がありましたか）			
※書ききれない場合は、裏面に書いてください			
避難所であったほうがよかったもの		応援があったらやりやすかったこと	
連絡先住所		電話番号もしくはメールアドレス	

※みなさんの応募をもとに、中高生の声をまとめた冊子を作成します。そのとき、もう少し詳しいお話をきかせていただく場合があります。連絡先の情報は、そのときに使用するだけで、ほかに個人情報をもらしたりはしません。プライバシーの保護のため、報告書やインターネットに皆さんのお名前や連絡先等を掲載することはありません。

震災後に中高生が果たした役割の記録プロジェクト 投稿用紙

震災後、避難所をはじめたくさんの場所で、中高生のみなさんの活躍が報じられました。小さな子どものお世話をしてくれた高校生、水や食料など重いものを率先してもってくれた中学生、自ら考えて動く中高生の姿に、大人はたくさんの勇気をもらいました。そこで、これらの活躍が忘れ去られてしまう前に、中高生のみなさんが果たした役割を教えてもらうプロジェクトを行います。どんな小さなことでもかまいません。中高生や子どもたちの働きを見た、或いは助けられた方のお話を教えてください。応募していただいたみなさんの投稿は、まとめて冊子にし、東北地域やその他の地域に伝えていきたいと思っています。

タイトル (あなたの見た、或いは助けられた活動にタイトルをつけるとすると)		投稿者お名前	年齢
いつ頃 ※○月～○月頃	どこで ※○○県○○市・町	だれが (人数、年齢など)	
①どんな活動を見ましたか？どんな活動に助けられましたか？			
②中高生たちのその姿に触れてどう思いましたか？(あなたや周りの大人に与えた影響など)			
③未来へ向けて中高生たちへの期待やメッセージを書いてください。			
※書ききれない場合は、裏面に書いてください。			

連絡先住所
電話番号もしくはメールアドレス

※みなさんの応募をもとに、投稿をまとめた冊子を作成します。その際にもう少し詳しいお話を聞かせていただく場合があります。連絡先の情報は、その際に使用し、その他、第三者に譲渡・公開は致しません。また、プライバシーの保護のため、お名前や連絡先を報告書に掲載することはありません。